

思いやり通信



仙台市立黒松小学校

令和5年1月26日

第10号

道徳的実践力

冬休みが終わり、どんと祭も終わり、一段と寒さが増してきた日のできごとです。いつものように、私は子供たちと朝の挨拶を交わしながら登校指導をしていました。すると、八乙女中学校の方向から黒松小学校の方へ戻ってきた二人の中学生がいました。二人は道で転んで泣いていた一年生の女の子を介抱しながら、わざわざ小学校まで連れてきてくれたのです。私が簡単なお礼を述べると、すぐに二人は来た道に戻って登校していきました。私は手当てのことや保護者への連絡の事で頭がいっぱいで、救助してくれた二人の名前を聞くのも忘れてしまったし、何より教育者としてこの二人の善行を称賛できなかったことを悔やみました。



女の子は額を打っていましたが、学校に駆けつけてくださったお母さんと一緒に病院で診てもらうことができ、次の日から元気に登校することができました。私は元気になった女の子に「良かったらこのエピソードをあったかポストで紹介してね。」とお話しました。

それからしばらくして、朝の挨拶運動をしていた私に「これ、お家で書いてきたの。」とこのお話の女の子がカードを2枚渡してくれました。昨日私が渡した「あったかカード」に1年生の女の子が、たくさんの時間をかけてお礼のお手紙を書いて持ってきてくれたのです。私は「感謝の気持ちを伝えたい」という真心のこもったこのお手紙に、感動を覚えました。

名前も知らない中学生でしたが、後日、何とか顔を思い出し手紙を渡すことができました。八乙女中の3年生という二人は黒松小学校の卒業生でした。転んだ場所や状況を聞くと、二人は登校時間をずいぶん割いて介抱してくれたようでした。改めてお礼を述べたのですが、二人があまりにも**当然のこと**をしたままでという顔をしているので、伝えなかった称賛は半分も伝えられませんでした。

今回のエピソードに登場した3人に共通しているのは**行動力**だと思います。泣いている子を見かけてとっさに救いの手を差し伸べた中学生も、感謝の気持ちを伝えるために放課後の時間も使って手紙を書いた小学一年生も、**良いと思えることはやってみようと思える行動力が素晴らしい**です。このような子供たちが少しでも増えていくよう、今後も教師として子供たちとの関わり合いを大切にしていきたいと思います。



育みたい公共心

下の写真はある日の三角公園（黒松 2 丁目東公園）で撮った写真です。子供たちが安心して遊べる場所、お年寄りや小さいお子さんを連れた家族の憩いの場ともなっています。丁度この写真を撮る 1 週間前には地域のどんと祭が実施され、私も参拝させていただきました。お焚きあげと神前に手を合わせ、この場所が**地域の皆さんにとって大切な場所**として守られていることを知りました。

地域にお住まいの方から匿名のご連絡を頂き、散乱したキャンディーの袋やチョコレートの包み紙を拾いながら、私はとても残念な気持ちになっていました。はじめはこの光景を黒松小学校の子供たちには見せたくないと考えたのですが、どんと祭に訪れていた地域にお住まいの皆さんの顔を思い出し、この写真を見て子供たちに何かを感じてもらいたいとも思いました。保護者の皆様にはこの写真をご家庭の話題として取り上げていただき、**美しい地域を愛する子供たちの心情**を育むのにご助力をいただければ幸いです。

